

あ

わ

喉音にして「あ」の二音より成りたるもの。

複母音の一つ。く音と合してくわいくわう

くわんくわつくわく等の音を生ぜしむる役目あり。

わ 輪(名)

「一」丸き物の周囲の線。「二」丸くして中の空になりたるもの。○「車の輪」「桶の輪」「雪輪」「花輪」

わ 回(名)

めぐり。●まはり。●ほさり。○「浦わ」里わ

わ 和(名)(形)

大和の和の字。○日本。○「和漢」「和歌」われ。○萬葉「何せむにわを召すらめや」

わ 吾(代)

和は借字。○汝と云ふ意にて呼び掛くる人の名詞の上に重ね云ふ詞。○「和殿」「和僧」

「和郎」「和女」「和男」「和狐」「和上臈」

は (後)

他より言ひ分つ力を示す詞。○「此はよし彼はあし」「昨日の雨に引きかへて今日は天氣なり」

は (感)

文句の終に置くに似たる感詞。○伊勢「いかにせんば」後撰「秋風の吹けばさ

わいろ

賄賂(名) まひなひ。

わいらい

(感) がやく騒ぐ聲。

わいらいし

(形。形狀言シク活) 分きくしの音便。○分明なる。●あきらかなる。●明白なる。

(脇)

わいだち

脇立(名) わきだちの音便。

わいだて

脇指(名) 鐙の兩脇に附けて

小手の隙を塞ぐもの。●わきあて。(圖)

わいだて

脇立(名) わきだてを見よ。

わいだめ

(名) わきだめの音便。○差別。●區別。

わいへ

我家(名) 「一」わきへの音便。○催馬樂「わいへ」ばざり帳をも垂れたるを「二」催馬樂の曲名。

猥雜(名) 猥がはしく混雜する事。

わいせつ

猥褻(名) 女色に關してみだりがはしき事。

わろ

汝。●貴殿。……男にのみ云ふ。

わらふた

圓座(名) 葉にて丸く作りたる敷物。昔し

禁中なごにて貴人の着座する時に用ひたる



襪。●こんざ。

わらうづ

(名) 藁鞋の音便。(雅)

わろぶ

(自動四段) 不體裁をあらはす。●外聞わろくある。○源氏「わろびたる事ども出でくる

わざなれば」

わろし

惡(形。形狀言ク活) あし。●ふからず。

わろびる

(自動下二段) 卑怯未練な體を爲す。○謡曲「わろびれたるけしきもなく参りて御前に

畏る」

わろもの

(名) 「(一)惡人。(二)下手。

わに

鰐(名) 「(一)魚の名。熱地に住みて時に人をも害するもの。鰐魚。(二)鰐鰂。

わにぐち

鰐口(名) 佛前に釣りたる一種の鐘。鈴の如く振り鳴らすもの。

わにさめ

鰐鰂(名) 魚の名。鱧の一名。

わほふし

和法師(名) 貴僧。●御僧。●坊さん。(著聞)

わほく

和睦(名) 和合親睦。●中直り。△(動)「和睦す。

わたう

和黨(代) 汝。●貴様。(宇治)

わたうし

和唐紙(名) 紙の名。和製の唐紙。

わどの

和殿(代) そなた。●そこそこ。●御身。●御

わちがひ

輪違(名) 紋の名。輪の打違

ひになりたる形。(圖)

わり

割(名) 割る事。●割り入るゝもの。

わりいん

割印(名) 確證の爲め甲の紙さ乙の紙さに半

分づゝ掛けて一つの印を押す事。之を双方に分ち携へて後日の用に供ふ。

わりはん

割判(名) 割印に同じ。

わりばし

割箸(名) 用ふる時二本に割るゝやうに作り

たる形箸。

わりちゅう

割註(名) 割書したる註釋。●分註。

わりがき

割書(名) 一行に書くべき文章の中に特に二

行に分けて書く事。

わりなし

(形。形狀言ク活) 「(一)無理な。●無分別な。

○元真集「心をも且はわりなしと思ふかな」
いつのまにかは燃えかへるらん」(二)よぎなし。●せんがたなし。○源氏「月日に添へていと忍びがたきはわりなきわざになん」(三)意も用法もいみじに同じ。●此上もなく。●こそのは。○源氏「女御も御



わりや

面赤みてわりなう見苦しと思したり」狭衣
「ならばぬ御心地にいさ心細うわりなし」
割矢(名) 紋の名。矢の羽を二つ
に割りたる形。(圖)

わりまつ

割松(名) 松薪の割りたるもの。

わりまへ

割前(名) 配當の一人分。

わりふ

割符(名) 割印を押して双方に分ち携ふる證票
●わつぶ。●符契。

わりご

破子(名) 蓋と身と二つに割るゝやうになりた
る食器。他行の時携ふるものにて辨當箱の
類。

わりあひ
わりざん

割合(名) 配當。●比例。
割算(名) 數を割るために用ふる算術。●除
法。

わりじやく

割笏(名) 笏を二つに裂きて作る樂器。……
笏拍子しやくびょうしを見よ。

わね

(代) 我等。(萬葉東歌)

わねし

和主(代) 貴様。●貴殿。●おまへ。

わる

割(他動四段) 「一」裂く。●破る。●毀つ。●分
つ。●分量を見定めて配り附くる。●二
除する。……算術にて。

わる

割(自動下二段) おのづから割れる。

わるくち

惡口(名) 人を惡しく言ふ言語。●罵口。●
あくこう。

わるさ

(名) 惡戯。
惡(形。形狀言ク活) わるい。●あし。●わるし。

わるし

(名) 「一」惡人。「二」下手。

わるもの

(和男代) 男を呼びかゝる詞。(宇治)

わなんな

(和女代) 女を呼びかゝる詞。(宇治)

わおのれ

(和己代) 汝。●貴様。(宇治)

わおもど

和御許(代) おまへさま。女に云ふ。(今昔)

わわく

(名) 亂雜。○明惠上人傳「人の心かたましく
わいくにのみなりて耻を知らず」

わわく

(自動下二段) 衣の破れ亂る。○萬葉「綿も
なき布肩衣の海松うみまつのこさわいけさがれる。

わわくる

かゝふのみ肩に打ちかけ」

わわくる

(自動四段) 亂れ騒ぐ。●わい／＼言ふ。○
著聞「人に語り或は人にもいはせてわい／＼
りけるが」

わわけ

(名) 衣の破れ亂る事。○夫木「紅の袖には
つれしまみよりなれがつかりのわいけな
が思ふ」

わわしく

(副)

わい／＼と。○増鏡「隨身わいしく罵れば」

わか

和歌(名)

「(一)日本の歌。●大和歌。●國風。(二)短歌。(三)白柏子の舞ふ時吟詠する歌詞。

「(四)謡曲にて舞の後などにシテ自ら發聲する文句。

わか

若(形)

若き。●幼稚なる○●新しき。●未熟なる。○「若松」若駒「若者」

わが

我。吾(代)

名詞の前に置き。又は動詞の主位を示す代名詞。おのが。●自身が。○「わが家」

わかい

和解(名)

怒りを解き和ぐる事。●和熟。●和睦。△(動)和解す。

わかいし

若衆(名)

「(一)若者。(二)特に町村内の青年團體。

わかいもの

若者(名)

年若き人。

わかば

若葉(名)

新たに生じたる葉。●新緑。……おもに春の末より夏の初頃のを云ふ。

わがはい

吾輩(代)

吾々共。●吾人。●我等。●吾曹。

わかばえ

若生(名)

わがだちに同じ。ひこばえ。(榮花)

わかたう

若黨(名)

若年の郎黨。

わかごの

若殿(名)

若君に同じ。おもに大名に云ふ。

わかごころ

和歌所(名)

勅撰歌集を編纂し又歌道を研究せしむるため昔し禁中に置かれたる役所。

わかごしより

若年寄(名)

徳川幕府の職名。老中に次ぐ重職。

わかち

別(名)

別つ事。●區別。●差別。

わがり

吾許(名)

わがもさ。●吾家。○萬葉「今宵か君がわがり來まさん」

わがぬ

縮(他動下二段)

曲げて輪の如くにする。○謡曲「別れの曲には柳條をわがぬ」

わかる

分(自動四段)

理解する。●合點する。●會得する。

わかる

分。別(自動下二段)

「(一)別々になる。●分離する。(二)人と別々になる。●離別する。

わかをどこ

若男(名)

「(一)若き男。(二)能面の名。

わかをんな

若女(名)

「(一)若き女。(二)能面の名。

わかわかど

若若(副)

若々しく。●子供らしく。○

蜻蛉「わかわかを書きたりけり」

わかわかし

(形。形狀言シク活) 若く見ゆる。●若や、なる。

わがかど

我門(名) 風俗歌の曲名。

わがかどに

我門爾(名) 催馬樂の曲名。

わがかどを

我門乎(名) 催馬樂の曲名。

わがかへ

(自動四段) 老人の又若々しくなる。

わがかへ

若楓(名) 若楓に同じ。

わがかへ

若楓(名) 若芽の楓。●若葉の楓。

わがかみ

若髮(名) 若く艶々しき髮。(源氏)

わかたち

若立(名) ひこばね。●若枝。(夫木)

わかたか

若鷲(名) 其年に生れたる鷹。(和名抄)

わかたつ

若立(自動四段) ひこばねの出づる。●若枝の生ずる。

わがたたみ

我疊(枕) 疊を三重に敷く意の枕詞。○萬葉「わがたいみ三重の河原の」

わがたつそま

我立袖(名) 「一」木を伐る爲めに我入り

立つ袖山。「二」傳教大師の歌より遂に比叡山の異名と爲る。○新古今。傳教大師「阿耨多羅三藐三菩提の佛たち我立つ袖に冥加あらせ給へ」

わかれ

別(名) 別るゝ事。●別離。●訣別。●告別。

わかれぢ

別路(名) 「一」人に別れて行く路。「二」路の兩方に別るゝ處。●枝道。

われはがほかに

(副) おれこそさいふ顔付をして。●傍若無人に。●傲慢に。△(形)「われはがほなる。……(雅)」

わかれのくし

別の櫛(名) 昔し齋宮の伊勢に下り給ふ時。天皇御手づから其額に刺させ給ふ櫛。

わかれめ

分目(名) 物の分るゝ所。●分れぎは。●分界。

わかれみち

別路(名) わかれちに同じ。

わかれじも

別霜(名) 春最終に降る霜。

わかつ

別。分(他動四段) 「一」別々にする。●區分する。●差別する。●分配する。●配當する。●分別する。●判別する。

わかつり

(名) 機のあやつる處。即ちかいぐりの處。

わかつる

(他動四段) あやつる。

わかね

若根(名) 若き根。

わかね

若音(名) 若き聲。

わかた

若菜(名) 春初めて萌に出づる野菜。正月七日

野に出て、之を摘み歸り人にも贈り自らも食ひて祝ふこと昔よりの習なり。初めは其種類を定めざりしかど後世は七草と爲る。すなはち芹、薺、五形、はこべら、佛の座、鈴菜、鈴しろの七種。

わかなご

若魚子(名) 魚の名。鯛の小ききもの。

わかなへ

若苗(名) 「一」若き木草の苗。「二」五六月の

稲の苗。田植にするもの。

わかなへいろ

若苗色(名) 「一」染色の名。萌黄。「二」重の色目。裏表ともに濃き緑。

わかん

和漢(名) 我國と漢土と。……今日に云ふ日清。

わかん

和姦(名) 法律上の詞。調和の上の私通。●姦通。△(動)——和姦す。

わかんごほり

王家統(名) 皇子の血統。●皇族の子孫。

わかんごほりばら

○源氏「わかんごほりの兵部の大輔の娘」
王家統腹(名) 皇族の子孫を母として生るゝ事。又は其生れたる子。○落窪「わかんごほりばらの君」

わかむらさき

若紫(名) 薄紫。●淺紫。

わかう

ワコウと發音する詞はわこの處にあり。

わがく

和學(名) 日本古今の事を研究する學問。……

わかぐり
わかくさ
わかくさの

神典、國史、律令、格式、有職、和文、和歌の類。●皇學。●國學。

若栗(名) 熟せざる栗。(夫木)

若草(名) 新芽を出したての草。

若草の(枕) 「一」若草の如く珍らしく愛らしき意にて妻の枕詞。又妻と云ふ名は二つの物の相對する稱なれば若草の二葉に生ゆるに喩へしならんとも云ふ。○萬葉「若草の妻のみこと」

「二」若草は若く新しきものなればわかにひ等の枕詞。○萬葉「若草のにひたまくら」若草の身のわかいへる」

「三」又若草の生はつくさといふ意にておもひつきにしの枕詞。○萬葉「若草の思ひつきにし君が目に」

(副) 若々しく。△(形)——わかやかなる。

(自動四段) 若やいになる。●若く見ゆる。

若松(名) 若木の松。●小松。

我儘(名) 我心の儘にする事。●氣儘。●自分勝手。△(形)——我儘な。(副)——我儘に。

ワコウと發する詞はわこの處にあり。

若(自動上二段) 若々しく見ゆる。(源氏)

わかこま

若駒(名) 春駒に同じ。(雅)

わかこま

吾駒(名) 催馬樂の曲名。

わかこも

若菰(名) 若き菰。

わかこも

若菰を(枕) 若菰をうるこ云ひかけたる枕

詞。○萬葉「若菰を獵路の小野に」

わかえ

若枝(名) 若き枝。

わがへ

我家(名) わがへへの略。○萬葉「わがへの園

に驚なくも」

輪飾(名) 輪注連に同じ。

わかざり

若狹塗(名) 若州小濱近傍より産する漆器。

わかさんじん

和歌三神(名) 住吉明神、王津島明神、柿

本人麿。

わかざくら

若櫻(名) 若木の櫻。

わかざくら

稚櫻(名) 履中天皇の皇居の名。

わかざき

若鷺(名) 魚の名。川尻に棲む小魚。

わかぎ

若木(名) 多くの年を経ざる木。

わかぎみ

若君(名) 主君の世子。●若殿。●若様。

わかゆ

(名) 若鮎の略音。(萬葉)

わかゆ

(自動下二段) 若やぐに同じ。

わかめ

若和布(名) 海草の名。昆布に似て薄く緑色深

く食用となるもの。

わがみ

我身(代) 「一」われ。●わたくし。●自身。●

身とも。●「二」汝。●そち。●お前。●そい。

(俗)

わかみどり

若緑(名) 若葉の緑色。○謡曲「老木も若

緑」

わかみつ

若水(名) 元且に汲み初むる水。

わかみや

若宮(名) 「一」其社の祭神の御子を祭りたる

宮。○「春日の若宮」「二」御幼年の皇子又は

皇女。

わかし

若(形。形状言ク活) 年の少なき。●幼し。●稚

し。●未熟なる。

わかじに

若死(名) 年若くして死ぬる事。●天死。●

早世。

わかしら

若白髪(名) 若き時に生ずる白髪。

わかじ

若衆(名) 「一」若き男。●未だ元服でざる少年。

(「二」男娼。

わかもち

若餅(名) 正月初めて搗く祝の餅。

わかもの

若者(名) 若人に同じ。●少年。●壯年。

わがものがほ

我物顔(副) 此は我物なりと云はぬば、

りの顔。△(形)―我物顔の。(副)―我物顔

に。

わがせ

我背(名) 「一」妻又は情婦より夫・情郎を

呼ぶ詞。●わがつま。「二」弟・妹より兄を

呼ぶ詞。●兄上。「三」男同士互に敬愛して

呼ぶ詞。●賢兄。

わがせこ

我背子(名) わがせに同じ。

わかす

沸・湧(自動四段) 「一」沸く様にする。●沸騰さする。「二」金屬を溶かす。●溶解さする。

わた

綿(名) 「一」蒲團、衣類などに入るもの。蠶より取りたるを真綿と云ひ。草の實より取りたるを木綿綿と云ふ。「二」木綿綿を取る草の名。「三」腸。

「一」蒲團、衣類などに入るもの。蠶より取りたるを真綿と云ひ。草の實より取りたるを木綿綿と云ふ。「二」木綿綿を取る草の名。「三」腸。

わた

海(名) 渡りの意。◎海。◎「わたの原」大わた曲(名) まがり。○枕「七曲にまがれる玉の」

わた

綿入(名) 綿を入れたる着物。

わたいれ

綿花(名) 綿にて製したる造り花。男踏歌の時、挿頭に用ふるもの。

わたばな

綿帽子(名) 眞綿にて造り女の冠るもの。

わたばうし

被ぎ綿。

わたどの

渡殿(名) 中古貴族の家の寢殿と對の屋との間にある建物。……寢殿造りを見よ。

わたち

轍(名) 車の通りたる輪の跡。

わたり

渡(名) 「一」渡る事。「二」船にて渡る所。●渡し。●渡場。「三」舶來。「四」さしわたし。

●直徑。

わたり

(名) あたり。●ほそり。○「近きわたり」小田のわたり」

わたり

渡板(名) 棧橋。

わたりいた

渡場(名) わたしに同じ。

わたりがは

(名) 冥途にありといふ川の名。三途の川。○風雅「戀しさに死なばやさへ思ふかな」

わたりがは

渡り川にも逢瀬ありやと

わたりがゆ

渡初(名) 枕飯(をの部)に同じ。(順集)

わたりぞめ

渡初(名) 橋の落成したる時に。渡り初むる儀式。……三夫婦揃ひたる人に。之を爲さしむるの風俗あり。

わたりぶね

渡舟(名) わたしぶねに同じ。(夫木)

わたりで

(名) 渡り瀬に同じ。(紀)

わたりもり

渡守(名) わたしもりに同じ。(萬葉)

わたりもの

渡物(名) 「一」舶來品。「二」給料。「三」官

わたりせ

より渡されたる奉公人。

渡瀬(名) 川の渡るべき所。●わたせ。

わたる

渡(自動四段)

「一」海河などを越ゆる。「二」物

事の一方より他方に移る。「三」月日などの過ぎ行く。「四」及ぶ。●行き届く。「五」受取る。

わたわざ

(副)

わなわなさに同じ。●身體のふるへる有様。●戦々。●びり／＼。●ぶる／＼。

○袂衣「わたわざふるはれて」

腸香(名)

近江の琵琶湖に産する小魚の名。

わたかまり

蟠(名)

「一」蟠まる事。「二」物事の凝りて延びぬ事。

わたかまる

蟠(自動四段)

輪の形に高まる。●丸く／＼たまる。

わたがみ

綿嚙(名)

鎧の名所。肩より頸に當るまゝに附けたるもの。

わたづみ

(名)

渡るべき波。●波。○古今「草も木も色かはれどもわたづみの波の花にう秋なかりける」

わたつくり

綿造(名)

上古葬式の時。濡れたる綿を以て死者の遺骸を拭ふ役の人。(紀)

わたづみ

(名)

「一」わたづみの略。「二」綿津見神の略。

わたづみのかみ

綿津見神(名)

海を守る神。●海神。

海中(名)

海上。(萬葉)

わたな

(名)

世渡りの業。●生計。●生業。

わたらひ

(他動四段)

渡るに同じ。●世渡りをする。

わたん

和談(名)

「一」和睦の相談。●和議。「二」風説。○曾我物語「一向人の和談にも候う」

わたうち

綿打(名)

綿を打ち和らぐる器械。又其職人。

わたのはら

(名)

海の廣々したる所。●海原。

わたのはら

(名)

わたのはらに同じ。

わたのき

綿木(名)

草の名。木綿綿を取る草。●草綿。

わたくり

(名)

綿繰車の略。

わたくりぐるま

綿繰車(名)

車を廻して木綿の實の核をふる器械。

わたくし

私(名)

「一」自分一己の事。●私事。……公の反對。「二」自分勝手。●我儘。

わたくし

私(代)

書簡文または會話の詞。我。●己。●僕。●權者。

わたくしあめ

私雨(名)

時ならずなり／＼降る時雨。

わたくしもの

私物(名)

自分一己の専有物として大事

にするもの。○源氏「わたくしものに思ほ
してかしづき給ふ事限りなし」

わたまし

移徙(名)

渡り座しの意。◎轉宅の敬語。御

移轉。

◎御引越。○「わたましの御祝」

わたげ

綿毛(名)

鳥の腹などに生じたる綿の如き毛。

わたこ

綿子(名)

小兒の服の名。綿入の袖無し。

わたぎぬ

綿衣(名)

綿入に同じ。

わたゆみ

綿弓(名)

綿を打つに用ふる弓の如き器械。

わたし

渡(名)

船に乗りて渡る場所。◎渡場。

わたし

(代)

わたくしの略。(俗)

わたしば

渡場(名)

船にて人を向岸に渡す所。◎渡。

わたしがね

●津。◎渡船場。

わたしがね

渡金(名)

水の上火の上などに渡す金。…

わたしがね

…耳盞の上に渡して饑饉入を置き。火鉢の

わたしがね

上に渡して魚を焼くものゝ類。

わたしがね

渡船(名)

渡場の船。

わたしがね

渡守(名)

渡船の船頭。

わたしがね

渡瀬(名)

わたりせに同じ。川の渡るべき所。

わたしがね

渡(他動四段)

「一」海河などを越えて向岸に至

わたしがね

らしむる。「二」物事を一方より他方に移す。

わたしがね

●受取らしむる。

われ

割(名)

割るゝ事。◎割れたる物の切れ端。◎破

われ

片。

われ

我。吾。予。余(代)

「一」人に對して自分を指す代

われ

名詞。◎おのれ。◎おれ。◎わたくし。「二」

われ

假に其人の身になりて汝また彼云ふべき

われ

處に用ふる詞。◎空穂「乳母は身も冷はに

われ

て、我にもあらで居たり」

われ

我譽(名)

自慢。

われ

我が(代)

わかに同じ。○和泉式部集「われが

われ

名は花盗人さ立たばたて唯一枝は折りて歸

われ

らん」

われ

割貝(名)

殻さ身さ別々に離れたる貝。○夫

われ

木「和歌の浦ふるさくだけの割貝も拾へる

われ

數に又まじりぬる」

われ

(名)

海草に宿り住む虫の名。○伊勢「戀ひ

われ

わびぬ海士の刈る藻に宿るてふわれから身

われ

をもくだきつるかな」……此歌は次の條な

われ

る副詞の意を兼ねたり。

われ

(副)

自分より求めて。◎他人の罪にはあら

われ

で。○「われから身をもくだきつるかな」…

われ

…前の條を參考せよ。

われかの

(形)

我い他人かの區別も分らぬ程に取り亂

したる意。○「われかのけしき」われかのさ

ま「われかの心地」(雅)

(副)

我方に理を附けて。(源氏)

(副)

我所爲にはあれど。●我身ではあれ

ど他人のやうに。○源氏「あやしの心やと

我ながらおぼさる」

われぶね

割舟(名)

破損せる舟。○長秋詠藻「洗みは

てぬるわれぶねの」

われて

(副)

無理に。●強ひて。○伊勢「二日といふ

夜男われて逢はんといふ。女もほたいさ逢

はじさと思へらす」

われひ

割樋(名)

割れたる笕。○爲家千首「かけわた

す竹の割樋にもる水のたねにだに訪ふ

人のなき」

われひと

我人(名)

我と他人と。

われもか

我木香(名)

草の名。花は紫色にて小さき

松笠の形をなし秋の野に咲くもの。

わそう

和僧(代)

和法師に同じ。

わっぱ

(名)

童の轉。

わっぱ

(副)

わい／＼呼ばゝる聲。○狂言「何をわっ

わど

(副)

ばさおしやる」

わづか

僅(名)

少々。●いさゝか。

わづかに

緩(副)

少々。●いさゝか。●辛うじて。●

かすかに。△(形)「わづかの。(又)「わづ

かなる。

わづらひ

煩(名)

煩ふ事。●憂。●苦。●病。

わづらはし

煩(形。形狀言シク活)

煩ふべき有様。●厭

ふべし。●うるさし。

わづらはす

煩(他動四段)

煩らばしむる。●面倒を掛

くる。●心配さする。

わづらふ

煩(自動四段)

「一」思ひ悩む。●憂ふる。

●苦しむ。●煩悶する。●病にて悩む。

●病む。

わづぶ

割賦(名)

割り附けたる出し前。わりまへ。

わづき

(名)

分ち。●區別。●分別。○萬葉「霞立つ

長き春日の。暮れにけるわづきも知らず」

わな

良(名)

繩を輪にして置きて鳥獸などを其中に陷

れ捕るもの。

わなわな

(副)

震ひわななく有様。●わだわださ。

●ぶるぶるさ。○平家「わな／＼さふるひ

ければ」

わななぐ

(自動四段)

恐れて身の震ふ。●をのいく。

●ふるふるふるへる。

わななき

(名)

わななく事。

わなみ

吾儕(代)

我等。●己等。●我輩。

わら

藁(名)

干し乾かしたる稻稈。
いりがら

わらひ

笑(名)

笑ふ事。

わらひぼさけ

笑佛(名)

傳博士の異名。

◎其像の笑顔なる故にいふ。

わらひいぐさ

笑草(名)

笑を催すべき材料。

わらひいゑ

笑繪(名)

春畫。●枕繪。

わらひいじょう

笑尉(名)

能面の名。尉の種類にして笑

を帯ひたるもの。

わらばひい

藁灰(名)

藁を燃して得たる灰。

わらにんぎやう

藁人形(名)

藁にて作りたる人形。

わらべ

童(名)

わらんべの略。

わらぢ

草鞋(名)

わらんぢに同じ。

わらぢむし

草鞋虫(名)

虫の名。濕地、床下、などに生

する虫にして形草鞋に似たるもの。●おさ

むし。

わらぢくひい

草鞋喰(名)

草鞋に擦れて出来たる傷。

わらは

童(名)

「一」小學々齡位の男女の稱。●子供。

●童兒。●童男または童女。●うなぬ。

わらはべ。●わらんべ。「二」貴人召使の童

男または童女。をのわらは(男)●めのわら

は(女)●小性(男)●こまづかひ(女)「三」童

男童女の髪。肩の邊まで垂らして未だ上げ

ざるもの。

わらは

童(代)

女の自身を卑下して云ふ詞。わたくし。

●妾。

わらは

童部(名)

「一」子供等。「二」我妻を卑下して

云ふ。(大鏡)

わらは

童生(名)

子供の生ひ立ち。(枕

わらは

笑(他動四段)

笑はしむる。(宇治)

わらは

童名(名)

童子の時の名。●幼名。

(自動下二段)

子供らしく見ゆる。○源氏「小

さきはわらはけて喜び走るに」

わらは

(名)

病の名。おこり。●瘡。●間歇熱。

(推)

わらは

童舞(名)

童にて奏する舞樂。●ごうぶ。

わらは

童氣(名)

子供らしき事。(落窪)

わらは

童殿上(名)

昔し童にて昇殿を

わらは

童殿上(名)

昔し童にて昇殿を

許されたる人。

わらは^ワあそび

童遊(名) 子供の遊び。

わらは^リし

(形。形狀言シク活) 笑ふべし。●をかし。(四季物語)

わらは^ワずるじん

童隨身(名) 昔し公卿に隨身として賜はりたる童。

わらは^ワすがた

童姿(名) 髪をまた童にして居る時の姿(源氏)

わらは^ワすまひ

童相撲(名) 童を力士にして取らする相撲。○三代實錄「天皇南殿に御して童相撲を觀給ふ」

わらがみ

藁紙(名) 近來製し出したる紙の一種。藁にて漉きたるもの。

わらつど

藁苞(名) 藁にて作りたる苞。(副) にこやかに。●笑を含みて。○源氏

わららかに

「人さまのわらゝかにけちかく物し給へば」
△(形) — わらゝかなる。

わらんべ

童部(名) わらはべに同じ。

わらんぢ

草鞋(名) わらぐつ轉じてわらうづとなりわらんづを爲りわらんぢを爲りわらんぢを爲る皆同じ意なれど殊にわらんぢさわらんぢさは

わらんづ

一種の形を成したる履物を意味す。即ち藁にて乳を附け長き紐を通して足に縛りつけるもの。農夫、人夫、旅人など常に之を用ふ。草鞋(名) わらぐつの音便。……わらんぢを見よ。○謡曲「さてまた八つ目のわらんづは。八葉の蓮華を踏まへたり」

わらふづ

(自動四段) をかしさを聲に發する。藁鞋(名) 「一」藁にて造りたる鞋。……現今は貴人の葬式に喪主の履くものと爲れり。

「二」わらんぢ。 「三」雪國にて雪中に履く一種のもの。

わらぐみ

藁組(名) 藁を組み立て造りたる敷物。藁屋(名) 藁にて屋根を葺きたる家。

わらぶき

藁葺(名) 藁にて屋根を葺く事。●其屋根。(名) 魚の名、鰯の小さなもの。

わらしべ

藁藥(名) 藁の心。●わらすべ。藁(名) 「一」三四月頃野山に生ずる草の名。初

わらび

めは莖のさき小兒の握り拳の如く巻かれて土を出で。一二尺のびて芝菜の如き葉を出だす。若き時これを折り取りて食用と



す。(二)紋の名。蕨の形したるもの。(圖)

わらび

蕨火(名) 蕨を燃料としてやす火。

わらびのこ

蕨粉(名) 蕨の根より取りたる粉。……蕨粉などの類。

わらびもち

蕨餅(名) 蕨の粉にて作りたる餅。

わらすべ

(名) わらしべに同じ。

わん

椀(名) 飯汁などを盛る漆塗の器。

わん

灣(名) 入江。入海。

わんぱく

(名) 小兒の我儘にて親の命など聞き入れぬこと。又は其小兒。いたづら。やんちゃ。

わんりど

腕力(名) 腕の力。

わんもり

椀盛(名) 椀に盛つた吸物の類。

わむすび

輪結(名) 紐の結び方の名。(圖)

わり

チウミ發音する詞は本の部にあり。



わのり

輪乗(名) 馬術の詞。輪の形に乗り廻す事。

わく

篋(名) 絲を巻き附くる道具。緒環。

わく

框(名) 細き木を組みめて骨を爲し。又は縁を爲したるもの。

わく

別(他動四段。又下二段) 物事を別々にする。別つ。分別する。區別する。判然さす

る。

わく

湧。沸(自動四段) 「一」水の地中より自然に噴

き出す。湯の噴き出す如くに煮え立つ。

●金屬の(噴き出す如くに)煮えこるける。

「二」小虫の(噴き出す如くに)發生する。

「三」物事の湧く如くに起る。

わぐ

(他動下二段) わがぬる。●輪にする。●曲ぐる。

わく

和光(名) 和光同塵を見よ。

わく

和光同塵(句) 佛の正眞の光を和

わく

らげて假に神と現はれ。世俗の塵に同じく

わく

交はりて衆生を濟度するの意。……兩部神

わく

道にて云ふ詞。

わくらはに

邂逅(副) たまさかに。●稀に。○新古今

わく

「わくらばに訪はれし人も昔にてそれより

わく

庭の跡は絶えにき」

わく

和訓(名) 支那語の和譯。●訓。

わく

輪組(他動四段) わがぬに同じ。●まるめる。

わく

○字治「薄色の衣をさらせたりければ二つ

わく

ながら取りてかいわぐみて」

わく

若子(名) 若君。●若旦那。(古)

わく

靈手(名) わくに同じ糸を巻きつけて繰る道具

○夫木「我、わくてわくての糸のいくめぐり
命長くて年を經ぬらん」

惑溺(名) 惑ひ溺るゝ事。△(動)―惑溺す。

惑問(名) 「一」人の問ひに答ふる體にしたる
論文「二」疑問。

惑星(名) 天文學上の詞。遊星に同じ。

(副) 騒がしき有様。●がや／＼。●わいわ
い。(又)―わや／＼と。

和譯(名) 日本語に翻譯する事。△(動)―和譯
す。

(名) 上古男子の尊稱。○記「建依別」鴨別」

譯(名) 事の筋道。●道理。●意味。●事情。●

理由。●仔細。●譯合。●譯柄。

(代) 汝。●御身。○萬葉「わげがため我手もす
まに春の野に拔ける茅花ぞめして用えま

せ」

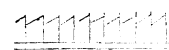
鬚(名) 髪の毛を縮れて結びたるもの。

●まげ。

譯柄(名) 譯に同じ。

分前(名) 割前。●取分。

分小札(名) 鎧の札の一種。(圖)



わけて 別(副) わきて。●特に。●別して。

わけあひ 譯合(名) 譯に同じ。

わけさ 輪袈裟(名) 袈裟の一種。幅
狭く輪の形に作れるもの。

(圖)



わけき 分葱(名) 野菜の名。葱の一
種にして細く柔かなる物。

わけめ 分目(名) 物を分けたる堺目。●分界。

わけもの 曲物(名) まげものに同じ。

わぶ (自動上二段) 「一」つらく思ふ。●こまる。●貧
しくなる。「二」訛謝罪する。

わぶん 和文(名) 「一」日本文。●國文。●邦文。「二」
特には中古體の文章。●雅文。

わこ 和子(代) 童兒を親しみて呼ぶ詞。

わこ 和語(名) 日本語。●國語。

わこ (代) 我かに同じ。……大君と續く時にのみ用ふ。
○萬葉「八隅しゝわこ大君の」

わこりょ (代) おまへ。●貴様。

わこん 和魂(名) やまさだましひ。

わこん 和琴(名) 神樂、健馬樂、東遊等に用ふる古代樂
器の名。六絃の琴にて楓の木を柱と爲

し。コトサキと稱ふる筈の如きも

のにて之を振き鳴らす。……昔

し岩戸神樂の時弓を六張ならへて

其弦を弾き鳴らしたるに起る云

ふ。●やまごいこ。●あづまひら。

〔圖〕

わか^{コウゴ}

若人(名) わかびさの音便。◎年若

き人。

わが^ゴふ^ツ

和合(名) 親睦。●調和。

わご^{クナ}く^ウ

輪後光(名) 佛像の後光の一種。

輪の形になりたるもの。(圖)

わご^ゼぜ

和御前(代) 御身。●そなた。…

…母より娘を呼ぶ時などに用

ふ。○謠曲「いたはしや母御



前。今を限りの御時。此鏡を和御前に取ら

するなり。母が姿を残す形見なり。戀しき

時に見るべしと。仰せ候ひし程に」

わ^セ

業(名) 「一」人の爲す總べての事。●所爲。「二」

技術。●技藝。

わ^コこ^ヒ

早稻飯(名) 早稻にて炊きたる飯。

わ^サさ^キ

早萩(名) 早咲の萩。五六月に咲くのを云

ふ。

早稻穂(名) 早稻の穂。(萬葉)

態(副) 「一」もとめて。●殊に。●別段。わざ

わざ。「二」専ら。●専門として。●主とし

て。●役ぞ。○萬葉「我妹子がわざと作れ

る秋の田の早稻穂のかづら見れどあかぬか

も」源氏「中務の君わざと琵琶は弾けど」

俳優(名) 「一」神樂、能樂、狂言、芝居等すべ

て演藝の總名。「二」之を演ずる役者。

禍災(名) 憂ひ哀しむべき事。●凶事。●

災難。●まがこと。

態態(副) わざさに同じ。

(形。形狀言シク活) わざさがまし。●わざ

くらしい。○大鏡「わざくしうこそご

さしう」

早稻田(名) 早稻を植ゐたる田。(萬葉)

(名) 鹿の角を石突の處に作りつけたる杖。

●鹿杖。(夫木)

早稻苗(名) 早稻の苗。

和讃(名) 「一」日本語にて佛德を讚美する歌。

「二」特には順禮の謠ふ三十三番の御詠歌を

云ふ。

わさん

和算(名) 珠算。……洋算に對して云ふ。

わざうた

(名) 神のしわざにて誰云ふもなく世に流行り出だせる歌。……國家未來の吉凶などを豫言するもの。●童謡。(紀)

わざび

山葵(名) 草の名。其根は香高くして味辛し。おろして食物の薬味に用ふ。

わざびど

(名) 俳優に同じ。(紀)

わざびおろし

(名) 山葵を擦りおろす道具。

わざもの

(名) よく切るい刀。

わざずき

早薄(名) 早く穂の出づる薄。○頼政集出でにけりわたの大野のわざずき又かたはちの異花もがな

わき

脇。腋(名) (一)肩の下側の凹みたる處。●脇の下。(二)衣服の名所。腋に當る部分。(三)總べて物の側面。●傍。●横。[四]他。●よこ。●はか。

わき

脇(名) (一)能樂にて仕手^{して}の相手を爲し之を助くる役。又其役者。(二)相撲にて最手^{はて}の次に位するもの。今の關分。(三)連歌にて第二句目の稱へ。

わき

別(名) 別ち。●差別。●區別。

わき

和議(名) 和睦の評議。●媾和の談判。

わきいた

脇板(名) 鐙の名所。左の方を總べて云ふ。

わきいらつこ

稚郎子(名) 若き男の尊稱。若君。●若殿。●郎君。(記)

わきいらつめ

稚郎女(名) 若き女の尊稱。●姫君。●令嬢。(記)

わきう

脇櫃(名) 船の艦櫃の外に添へて押す櫃。

わきはら

脇腹(名) (一)横腹。(二)本腹の外の腹。●妾腹。

わきはさむ

脇挟(他動四段) 腋の下に挟む。○宇治「杖をわきはさみつゝ」

わきはしら

脇柱(名) 能舞臺の名所。向ひて右の方脇師の着座する處の柱。

わきはつく

脇發釘(名) 連歌にて第二句目の稱へ。

わきはね

脇骨(名) 脇腹の骨。●肋骨。

わきり

輪切(名) 料理の詞。丸きものを横に薄く切る事。

わきをかく

(句) 兩手にて脇をかくへて威張る。●扼腕する。○宇治「何ねし。其男が尻鼻。血あゆばなり必ず蹴給へ。さいへば。いはる

る相撲わきをわきて。己れが蹴てんには如何にも生かじものを云々

わきが

腋臭(名)

病の名。脇の下より悪臭の液を分泌するもの。

わきがみ

腋上(名)

孝昭天皇の皇居の名。

わきたち

脇立(名)

佛像にて本尊の左右に立つ菩薩の類。●脇侍。

わきたて

脇立(名)

兜の前立の左右に附きたるもの。●わいだて。

(圖)



わきつね

和狐(名)

汝狐。(宇治)

わきつけ

脇附(名)

手紙の名宛の左の下の所に書き添ふる文字。……「御人々」親展の類。

わきつき

脇突(名)

脇能(名) 能樂を數番演する時第一番目の能をいふ。○脇を務むる人に重きを置く故の名。

わきのう

脇能(名)

能樂を數番演する時第一番目の能をいふ。○脇を務むる人に重きを置く故の名。

わきのした

脇下(名)

腋の凹み。||脇に同じ。

わきそ

脇臭。(和名抄)

わきまふ

辨(他動下二段)

「一」物事の道理を了解する。●辨別する。●二償ふ。●辨償する。

わきまへ

辨(名)

辨別。●辨償。

わきごし

腋與(名)

與の後。(註曲)

わきて

(副)

取分けて。●特別に。●殊に。

わきあがる

(自動四段)

沸きて噴きあがる。●煮ゆ立つ。●沸騰する。

わきあけ

闊腋(名)

「一」わきあけのころもの略。又其装束の腋をあくる事。「二」脇明小兒の衣の八つ口。

わきあけのころも

闊腋衣(名)

けつえきのほうを見よ

わきあて

脇當(名)

脇襦に同じ。

わきざし

脇差(名)

大刀に添へて腰に差す小刀。●短刀。

わきざし

脇座衆(名)

傍に居る人々。●居合す人々。

わきさや

うげん

脇狂言(名)

脇能の跡に演する狂言。

わきみ

脇見(名)

脇の方を見る事。●よそみ。

わきみ

我君(代)

わがきみの略。○御身。●貴君。●貴殿。(萬葉)

わきみち

脇道(名)

脇の方へ行く道。●横道。

わきし

脇師(名)

能樂にて脇の役を勤むる人。又之を専門とする藝人。

わき^エ

我家(名) わがいへの約音。(記)

わきも

我妹(名) わがいの約音。◎「一」我妹。●い

わきもち

我妹子(名) 「一」わきもちに同じ。「二」神樂歌

わきもちに

の曲名。

我妹子に(枕) 妹に逢ふの意にてあふちあ

ふさかあふみ等に掛かる枕詞。○萬葉「我

妹子に棟の花は」同「我妹子に逢坂山の」

わめく

(自動四段) わめく。●叫ぶ。

わみや^{ミヨ}う

和名(名) 日本語にて稱ふる名目。……漢

名。洋名などに對していふ。

わし

鷺(名)

鳥の名。形鷹に似て大きく深山に棲みて

時々人をも攫み去る肉食鳥。

わし

(代)

わたくしの略。(俗)

わじ

和字

日本にて漢字に擬し作りたる文字。……櫛、

柅、櫛、峠、舩の類。

わしりて

走出(名)

はしりに同じ。

わしる

奔(自動四段)

はしるに同じ。

わじや^{ジヤ}う

和上(名)

和尚に同じ。一寺の長たる僧。

わしつかみに

(副)

鷺の物を攫む如く一つかみに。

わしづりのたち

鷺造太刀(名)

鳥頭の太刀に同じ。

わしん

和親(名) 國と國と親睦する事。

わしのおやま

鷺御山(名)

わしのやまの尊稱。

わしのたかね

鷺高嶺(名)

わしのやまに同じ。

わしのやま

鷺山(名)

「一」天竺の靈鷲山を云ふ。釋

迦の説法せし所。「二」我國にては比叡山。

わしのみね

鷺嶺(名)

わしのやまに同じ。

わしのみやま

鷺御山(名)

わしのやまの尊稱。

わじまぬり

輪島塗(名)

漆器の名。能州輪島近傍より

産するもの。

わじく

和熟(名)

和談の調ふ事。●和睦。●親睦。△

(動) 和熟す。

わじめ

輪注連(名)

正月の飾に用ふる注連繩の一種。

小さき輪にして釘などに掛くるもの。

わび

詫(名)

謝罪。

わびされ

(名)

困却しての戯れ。○蟬始「女房に懸物

乞ひたればさるべきものや忽に覺ぬざりけ

ん。わびされに青き紙を柳の枝に結びつけ

たり」

わびし

(形。形狀言シク活)

つらし。●くるし。●貧

し。

わびしらに

(副)

わびしげに。●つらそうに。○古今

「わびしらにましろな鳴きを足引の山のひある今日にやばあらぬ」

わびびと

佗人(名) 「一」つらき事のある人。●悲しみ

居る人。「二」貧しき人。

わびずまひ

(名) わびしき住居。●假住居。

はも

(感)

はとも二つの感詞を重ねたるもの。●わ

いあ。○萬葉「かくのみにありけるものを萩の花さきてありやと問ひし君はも」

わせ

早稻(名)

稻の一種。早く實るもの。

わせい

和製(名)

舶來品に擬し我國にて製造したる物品。

わせる

(自動)

おはす。●いらせらる。○狂言「今日吉日で駕がわせる」

わせん

和船(名)

日本形の船。

わせん

和戦(名)

和睦と戦争と。

わせんじやう

和先生(代) 長者を敬ひて云ふ詞。(宇治)

わせあは

早栗(名)

早く熟する栗。

わす

和(他動サ變)

「一」和睦する。「二」同意する。「三」

同調にて歌ふ。●合奏する。「四」返歌する。

「五」次韻する。

わする

忘(他動四段。又下二段)

思ひ出し得ぬ。●失念する。●忘却する。

わすれな

忘緒(名)

半臂に附きたる紐。また大緒ともいふ。

わすれがひ

忘貝(名)

貝の名。……和歌にては此貝を拾ひて憂を忘るゝよしを常によむ。○萬葉

「いさまあらは拾ひに行かん住吉の岸にるさふ戀わすれ貝」

わすれがたみ

忘形見(名)

忘れ難き形見の意。かたみは二つの意を持たせたる詞なり。「一」昔の

形見。●紀念物。「二」親の死後に生れたる子。●親の死後に生存する子。

わすれづき

忘月(名)

一周忌に當る月。○榮花「故うへの御わすれづきなりければ」

わすれぐさ

忘草(名)

「一」草の名。萱草の雅名。「二」煙草の異名。

わすれざき

忘咲(名)

歸り花。●歸り咲。

わすれみつ

忘水(名)

人に有處を忘れらるゝの意。◎絶えたるに流るゝ野中の水。●有るゝ無き

かの流れ。○玉葉「山陰やくらき岩間の忘れ水たねく見ねて飛ぶ螢かな」

わすれじも

忘霜(名) 春あたゝかになりて忘れたるや
如く稀に降る霜。

